

## 近世の地蔵講を伝える貴重な地蔵

善通寺詫間線から北へ入り、春日神社の前の道をさらに北に進むと、小さなお堂が見えてきます。ここに納められているのが阿瀬の地蔵菩薩です。

地蔵は、高さ約2mの檜材の寄木造りで左手に宝珠、右手に錫杖を持ち、両足をそろえて台座に立っています。行基の作と伝えられていますが、鎌倉期以降の作ともいわれ、作者は不明です。

由来については、弘田町の入江氏が阿波の国から招来安置した説と、天霧城主・香川氏の配下である入江一馬氏が天霧山から移したという説の2つがあります。

何度も彩色され、本来の面影が損なわれているのが惜しまれますが、仏像の価値は高く、地蔵と地神（土地の神様）信仰が結合した近世の地蔵講のことをよく伝える貴重なものです。現在は、桜や松に囲まれコンクリートの覆屋おおいやに守られています。



しっかりしたつくりの端正な地蔵



■弘田町1465

●市営野球場から徒歩約10分